

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「高志・卓行」の校訓の下、普通科・英語科・理数科それぞれの特色を活かしつつ、お互いが切磋琢磨することにより、高い学力と豊かな人間性を身につけ、次代を見据えた新たな価値観を見出せる学校

教育目標：「よりよい社会の創造に積極果敢に挑戦する人材」の育成

- 1 知的好奇心を持ち、自ら課題を発見し、その解決に向けて努力できる人材
- 2 高い自尊感情を持ち、自らの考えを積極的に発信できる人材
- 3 他者を尊重し、協働して物事をなそうとする人材

2 中期的目標

1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成

(1) 「わかる授業」から「生徒が主体的に考える授業」をめざした授業改善への取り組み

ア 公開授業や研究授業を積極的に行うとともに、授業見学カード、授業アンケート等を活用して授業改善に組織的に取り組む。

※ 令和10年度学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数を85%以上維持する。（R5 82% R6 85% R7 88%）

イ 特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む。

※ 令和10年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を90%以上にする。生徒（R5 84% R6 84% R7 88%）保護者（R5 91% R6 94% R7 94%）

※ 令和10年度学校教育自己診断（生徒）において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数を80%以上にする。（R5 78% R6 79% R7 83%）

※ 令和10年度学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数を85%以上維持する。（R5 84% R6 86% R7 91%）

※ 令和10年度学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数を85%以上維持する。（R5 88% R6 87% R7 89%）

(2) 「探究活動」の一層の推進による主体的・対話的で深い学びの充実・深化

ア 「探究活動」「課題研究」において、主体的に学ぶ態度、論理的な思考力・判断力・表現力を育成する。

※ 令和10年度学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を80%以上にする。（R5 78% R6 76% R7 82%）

イ 「探究活動」に関する教員のスキルアップに向けた教員研修の実施

※ 令和10年度学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数を95%以上維持する。（R5 95% R6 98% R7 95%）

(3) 自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用

ア 学習支援クラウドサービスを活用して、生徒自身が進捗状況を確認する。

イ 全国模試を活用することにより、学力定着度等について確認する。

※ 令和10年度学校教育自己診断（生徒）において、「3年間を通じて、自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数を80%以上にする。（R5 75% R6 73% R7 77%）

(4) ICT活用の推進

ア 生徒の学習意欲向上および学習保障に向け、ICTを積極的かつ効果的に活用し、どんな状況においても学びを止めない体制を構築する。

※ 令和10年度学校教育自己診断（教職員）において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数を98%以上にする。（R5 100% R6 98% R7 97%）

(5) 第5次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進

ア 図書館の利用促進および読書習慣の確立

※ 令和10年度において、生徒の図書館貸出冊数を2,000冊以上にする。（R5 1,443冊 R6 1,640冊 R7 2,288冊）

2 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 生徒指導

ア 「時間を守る意識・体調管理の意識向上」「自分から挨拶」運動の推進による基本的生活習慣の習得および規範意識の向上

※ 令和10年度学校教育自己診断（生徒）において、「基本的生活習慣やマナーが身についた」の指数を85%以上維持する。（R5 87% R6 88% R7 90%）

※ 令和10年度において、寝過ごしを理由とした遅刻を750件未満にする。（R5 610件 R6 829件 R7 992件）

※ 令和10年度において、1か年の遅刻ゼロの生徒を全校生徒の60%以上にする。（R5 56% R6 57% R7 54%）

イ 校医やスクールカウンセラーと連携し、生徒一人ひとりの心身の健康・体力を保持増進する力を育成する。

※ 令和10年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数を90%以上維持する。生徒（R5 92% R6 93% R7 95%）保護者（R5 93% R6 90% R7 91%）

ウ 全教職員・生徒で、ごみの減量および分別化を推進する。

エ 校内清掃活動の日常的实施および地域と連携したボランティア活動を推進し、生徒の相互扶助精神を養う。

※ 令和10年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数を85%以上にする。生徒（R5 89% R6 79% R7 85%）保護者（R5 79% R6 80% R7 82%）

オ 「開かれた学校づくり」をめざし、HP等を活用し、本校の教育活動、生徒の様子等について積極的に外部に発信する。

※ 令和10年度学校教育自己診断（保護者）において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に発信している」の指数を90%以上にする。（R5 89% R6 87% R7 83%）

(2) 特別活動（学校行事、部活動）の充実によるリーダーシップ・パートナーシップ・フォロワーシップの育成

ア E-F e s（体育大会・文化祭）等の学校行事等、生徒会活動を充実させることで、生徒の自主性、協調性、創造力を養う。

※ 令和10年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、自主性を重んじた指導が行われている」の指数を90%以上維持する。生徒（R5 90% R6 88% R7 94%）保護者（R5 91% R6 94% R7 92%）

イ 大阪府「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動を推進し、さらなる活性化により自立心・協調性を養う。

- ※ 令和10年度において、部活動加入率を90%以上にする。(R5 82% R6 85% R7 83%)
- ※ 令和10年度学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数を85%以上にする。
生徒(R5 82% R6 80% R7 83%) 保護者(R5 86% R6 88% R7 88%)

(3) 教育活動全体を通じた人権教育による人権感覚の醸成

- ア 人権教育推進委員会を中心とし、教育活動全体を通じて、道徳心および多様性を受容する人権感覚を養う。
- イ 芸術鑑賞、人権講演会を通じて、豊かな感性や情操、自他尊重の精神を養う。
- ※ 令和10年度学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数を90%以上にする。生徒(R5 89% R6 91% R7 93%) 保護者(R5 88% R6 89% R7 89%)
- ※ 令和10年度学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数を95%以上にする。
生徒(R5 92% R6 94% R7 94%) 保護者(R5 93% R6 94% R7 95%)
- ウ いじめ防止対策委員会を中心とし、いじめの未然防止および事案発生時は組織的かつ迅速、適切に対応する。
- ※ 令和10年度学校教育自己診断(教職員)において、「いじめや体罰(その疑いを含む)の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数を95%以上維持する。(R5 100% R6 98% R7 97%)

(4) 生徒支援の充実

- ア スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材の活用により、教育相談体制を充実させる。また、支援教育推進委員会を中心に生徒情報の共有化に努めるとともに、配慮を要する生徒の実態を的確に把握し、合理的配慮の観点から踏まえた支援を行う。
- ※ 令和10年度学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数を90%以上にする。
生徒(R5 87% R6 89% R7 91%) 保護者(R5 84% R6 87% R7 87%)

3 進路指導・キャリア教育の充実

(1) 生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実

- ア HR、進路講話等を通じて、生徒の進路意識を向上させる。
- イ 進路決定・実現に向けた生徒の主体的な取組みを促進する。
- ウ 進路や高大連携に関する情報提供を適切かつ速やかに行い、生徒の進路選択を支援する。
- ※ 令和10年度学校教育自己診断(生徒)において、「HRや進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数を80%以上維持する。
(R5 77% R6 81% R7 84%)
- ※ 令和10年度学校教育自己診断(生徒)において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を80%以上にする。生徒(R5 78% R6 79% R7 86%)

(2) 保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上

- ア 保護者への情報提供を適切に行い、家庭との連携を密にして生徒の進路実現を支援する。
- ※ 令和10年度学校教育自己診断(保護者)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を75%以上維持する。保護者(R5 73% R6 77% R7 77%)

(3) 進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実

- ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、大学入試改革に的確に対応できるよう指導を充実させる。
- イ 進学指導力向上に向け、模試分析会、志望校検討会を充実させる。
- ※ 令和10年度学校教育自己診断(教職員)において、「進路についての適切な情報を生徒に知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を95%以上維持する。(R5 95% R6 96% R7 97%)

(4) 生徒の希望する進路の実現

- ア 生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行い、進路結果についての生徒の満足度を高める。
- ※ 令和10年度卒業生のうち、進路結果についての生徒の満足度を90%以上にする。(R5 87% R6 87% R7 88%)
- ※ 令和10年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者を70名以上にする。(R5 68名 R6 52名 R7 52名)

(5) 令和6～8年度学校経営推進費事業「東創究学」(E-PLANET) 構想

- 学校図書館の探究空間創設と自習室の機能強化による東高校のさらなる学究化をめざして—
- ※ 令和10年度において、国公立大学総合型選抜での合格率を40%以上にする。(R6 33% R7 0%)
- ※ 令和10年度において、図書館を利用した授業を年間70回を維持する。(R6 36回 R7 72回)
- ※ 令和10年度において、学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を85%以上にする。(再掲)
- ※ 令和10年度において、生徒の図書館貸出冊数を2,000冊以上にする。(再掲)
- ※ 令和10年度において、学校教育自己診断(生徒)において、「普通科、英語科、理数科の3学科並置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を90%以上にする。(再掲)

4 チーム東高校として課題解決にあたる教員集団の確立

(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり

- ア 学習支援クラウドサービスの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化を図る。
- イ 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立するとともに、意見・提案しやすい環境づくりに努める。
- ウ 有事において、教職員へ円滑な情報伝達を行うとともに、早期解決に向け、組織的に対応する。
- ※ 令和10年度学校教育自己診断において、「教職員間で、生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数を80%以上維持する。
(R5 83% R6 86% R7 90%)
- ※ 令和10年度学校教育自己診断において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数を80%以上維持する。(R5 83% R6 86% R7 85%)
- ※ 令和10年度学校教育自己診断(教職員)において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数を90%以上にする。(R5 83% R6 92% R7 92%)

(2) 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく働き方改革の推進

- ア 校務運営について業務の見直しやICTを用いた効率化を図る。
- イ 部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定するとともに、適切な指導・運営体制を構築する。
- ウ ゆとり週間等の取組みを通じて、休暇を取得しやすい環境を整備する。
- ※ 令和10年度までに、教職員の平均時間外在校等時間を年次減少させ、令和7年度比4%以上減とする。
(12月現在 R5 36時間51分 前年度比4%減 R6 35時間14分 前年度比4%減 R7 28時間30分 前年度比19%減)
令和10年度までに月の時間外在校等時間が45時間を超える教職員数を5名以内にする。(R7 35名)

<p>5 令和10年度からの学科改編に向けた諸改革</p> <p>(1) 学科改編に伴う学校運営体制の改革</p> <p>ア 円滑に学科改編が進むよう、課題ごとに5つの学科改編PTを編成し検討を行う。 (校務運営検討PT、教育課程検討PT、生徒指導等検討PT、進路指導検討PT、専門学科検討PT)</p> <p>イ 「将来構想検討チーム」を公募により編成し、学科改編に伴う東高校の将来像についての検討を行う。</p> <p>※ 令和10年度学校教育自己診断において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数を80%以上維持する。(再掲) (R5 83% R6 86% R7 85%)</p> <p>(2) 広報活動の充実</p> <p>ア 学科改編を見据え、ホームページ・Instagram・動画配信サービス等で本校の魅力を発信し志願者増につなげる。</p> <p>イ 学校見学会・説明会を充実させるとともに、外部の説明会等に積極的に参加し、学科改編に伴う本校の魅力を発信し志願者増につなげる。</p> <p>※ 令和10年度学校教育自己診断(保護者)において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に発信している」の指数を90%以上にする。(再掲) (R5 89% R6 87% R7 83%)</p> <p>※ 令和10年度入学者選抜における志願倍率を、1.3倍以上にする。 (R6選抜 1.38倍 R7選抜 1.18倍 R8選抜 1.24倍)</p> <p>※上記、各指標における「指数」とは、各アンケート等に対する「肯定的な意見の割合」をさす。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成	<p>(1) 「わかる授業」から「生徒が主体的に考える授業」をめざした授業改善への取組み</p> <p>ア 公開授業や研究授業を積極的に行うとともに、授業見学カード、授業アンケート等を活用して授業改善に組織的に取り組む。</p> <p>イ 特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む。</p> <p>(2) 「探究活動」の一層の推進による主体的・対話的で深い学びの充実・深化</p> <p>ア 「探究活動」「課題研究」において、主体的に学ぶ態度、論理的思考力・判断力・表現力を育成する。</p> <p>イ 「探究活動」に関する教員のスキルアップに向けた教員研修の実施</p> <p>(3) 自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用</p> <p>ア 学習支援クラウドサービスを活用して、生徒自身が進捗状況を確認する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教員の授業力向上をめざし、年次研修の研究授業に加え、年間2回の公開授業（相互授業見学）を実施し、「授業見学カード」等を活用し、意見交換を行う。</p> <p>イ</p> <p>【理数科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの事象について科学的な視点を身につけるため、1年生宿泊野外実習や探究基礎、2年生理数科先端研修における実験や体験学習等を行う。 科学・技術への関心を高めるとともに、自己の進路や将来像を考えるため、大学教授による講演（レクチャー）を実施する。 コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上をめざし、「課題研究」において共同研究および校内発表会を実施するとともに、外部発表会にも参加する。 <p>【英語科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる文化や価値観に対する理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力の向上に向け、「英語集中ゼミ（探究活動）」を行う。また、グローバルな視点を身につけるため、講演会を実施する。 英語でのコミュニケーション能力を身につけるため、NET（外国語指導員）との交流をはじめ、姉妹校交流、国際交流への参加を積極的に進める。 <p>(2)</p> <p>ア・社会に対する生徒の興味・関心、研究に対する意欲を高め、主体的に学ぶ態度、論理的思考力を身につけるため、1年生を「探究基礎」、2年生を「探究実践」と位置づけ、少人数のチームで「探究活動」を実施する。</p> <p>イ・全教員が「探究活動」の趣旨目的を共有し、生徒の活動を充実させるとともに指導助言力を向上させ、教科指導等にも活かせるよう、定期的な情報交換会、教員研修を実施する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用して、学習の振り返りを行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数を85%以上にする。 [R7 88%]</p> <p>イ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を90%以上にする。 [R7 生徒 88% 保護者 94%]</p> <p>・学校教育自己診断（生徒）において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数を80%以上にする。 [R7 生徒 83%]</p> <p>【理数科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数を85%以上にする。 [R7 理数科生徒 91%] <p>【英語科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数を85%以上にする。 [R7 英語科生徒 89%] <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を80%以上にする。 [R7 生徒 82%]</p> <p>イ・学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数を90%以上にする。 [R7 教職員 95%]</p> <p>(3)</p> <p>アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（生徒）において、「3年間を通じて、自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数を80%以上にする。 [R7 3年生 77% (R5 1年生 43%)] 	

	<p>イ 全国模試を活用することにより、学力定着度等について確認する。</p> <p>(4) ICT 活用の推進 ア 生徒の学習意欲向上および学習保障に向け、ICT を積極的かつ効果的に活用し、どんな状況においても学びを止めない体制を構築する。</p> <p>(5) 第5次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進 ア 図書館の利用促進および読書習慣の確立</p>	<p>イ・年間3回の全国模試の結果をもとに担任と面談を通じて、学力定着度や学習への取組みについて確認する。</p> <p>(4) ア・授業において1人1台端末を利用した教材活用や課題作成を積極的に進めるとともに、臨時休校等に備え、日常的にWeb会議システムを活用する。</p> <p>(5) ア・教科指導や探究活動などで積極的に図書館の書籍を活用する。また、生徒のニーズを把握し、オンラインを活用した図書館の書籍紹介やデジタル書籍の貸出を行う。生徒の読書意欲向上に向け、ビブリオバトルへの参加を促進する。</p>	<p>(4) ア・学校教育自己診断(教職員)において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数を98%以上とする。 [R7 97%]</p> <p>(5) ア・生徒の図書館貸出冊数を2,000冊以上にする。 [R7 2,288冊] ・図書館を利用した授業について年間70回を維持する。 [R7 72回]</p>	
<p>2 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒指導 ア 「時間を守る意識・体調管理の意識向上」「自分から挨拶」運動の推進による基本的生活習慣の習得および規範意識の向上</p> <p>イ 校医やスクールカウンセラーと連携し、生徒一人ひとりの心身の健康・体力を保持増進する力を育成する。</p> <p>ウ ごみの減量および分別化を推進するとともに、校内清掃活動および大掃除等により、校内美化の意識を高める。</p> <p>エ 「開かれた学校づくり」をめざし、HPを活用し、本校の教育活動、生徒の様子等について積極的に外部に発信する。</p> <p>(2) 特別活動(学校行事、部活動)の充実によるリーダーシップ・パートナーシップ・フォロワーシップの育成 ア E-Fes(体育大会・文化祭)等の学校行事等、生徒会活動を充実させることで、生徒の自主性、協調性、創造力を養う。</p> <p>イ 大阪府「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動を推進し、さらなる活性化により自立心・協調性を養う。</p>	<p>(1) ア・毎日の挨拶励行に加え、生徒会、風紀委員による挨拶運動を定期的に行う。 ・年間3回の遅刻防止週間を設けるとともに、丁寧に粘り強く個別指導を行う。</p> <p>イ・生徒全員に各種健診を受診するよう指導する。また、その結果や健康調査をもとに校医の指導・助言を得て、適切に健康指導を行う。</p> <p>ウ・毎日の清掃と大掃除(月に1回程度)を行うことで校内美化の意識を高めるとともに、保健美化委員による自主的な清掃活動を促進する。ゴミの持ち帰りに関する啓発ポスターの作製・掲示やデジタル化により、ゴミの減量化・分別化に取り組む。</p> <p>エ・本校の授業や学校行事、部活動の様子等について、ホームページで年間400件以上更新する。また、Instagramや動画配信サービス等でも積極的に発信する。</p> <p>(2) ア・生徒会執行部のミーティングを定期的に開催し、執行部の連携を深めるとともに、学校行事等に関する生徒のニーズを把握し、生徒主体の特別活動の運営を進める。 ・学年・学科、クラブの枠を越えた、東高校の一員として生徒同士のつながりを実感できる活動の場を創造する。 イ・部活動への加入を促すため、校内での表彰掲示や中庭ライブ、クリスマスライブなどの活動発表の場を創出する。 ・クラブ間のつながり、リーダーとしての意識付け、自主的な取り組みを促すため、クラブ代表者会議を開催</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)において、「基本的生活習慣やマナーが身についた」の指数を85%以上にする。 [R7 生徒90%] ・寝過ごしを理由とした遅刻を750件未満にする。 [R7 992件] ・1か年の遅刻ゼロの生徒を全校生徒の60%以上にする。 [R7 54%] イ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数を90%以上にする。 [R7 生徒95% 保護者91%] ウ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数を生徒、保護者ともに80%以上にする。 [R7 生徒85% 保護者82%] エ・学校教育自己診断(保護者)において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に情報を発信している」の指数を85%以上にする。 [R7 保護者83%]</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」という指数を90%以上にする。 [R7 生徒94% 保護者92%] イ・部活動加入率を85%以上にする。 [R7 83%] ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数を85%</p>	

	<p>(3) 教育活動全体を通じた人権教育による人権感覚の醸成</p> <p>ア 人権教育推進委員会を中心とし、教育活動全体を通じて、道徳心および多様性を受容する人権感覚を養う。</p> <p>イ 芸術鑑賞、人権講演会を通じて、豊かな感性や情操、自己尊重の精神を養う。</p> <p>ウ いじめ防止対策委員会を中心とし、いじめの未然防止および事案発生時は組織的かつ迅速、適切に対応する。</p> <p>(4) 生徒支援の充実</p> <p>ア スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材の活用により、教育相談体制を充実させる。また、支援教育推進委員会を中心に生徒情報の共有化に努めるとともに、配慮を要する生徒の実態を的確に把握し、合理的配慮の観点から踏まえた支援を行う。</p>	<p>し、ひとつの学校としての一体感を醸成する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・生徒が安全で安心できる学校生活を送れるよう、生徒・教員アンケートを実施し、生活実態を定期的に把握する。不安な状況があれば、関係各所で連携し、速やかかつ組織的に対応する。</p> <p>イ・各学年において年1回芸術鑑賞を実施する。また、全学年対象の人権講演会を年1回実施する。</p> <p>ウ・いじめ防止対策委員会を中心に、基本的な対応について教員間で共有するとともに、積極的にいじめを認知する。 ・事案発生時は、速やかにいじめ対策委員会を開催し、情報共有のうえ解決策を検討し、適切に対応する。</p> <p>(4)</p> <p>ア・スクールカウンセラー等による教員研修を年1回以上実施し、生徒一人ひとりに対する理解を深め、より適切な対応に努める。 ・「高校生活支援カード」等を活用し、配慮を要する生徒を速やかに把握するとともに、生徒、保護者、関係部署で連携し、当該生徒に必要な学習面、生活面等の配慮を行う。</p>	<p>以上にする。 [R7 生徒 83% 保護者 88%]</p> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数を85%以上にする。 [R7 生徒 93% 保護者 89%]</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数90%以上にする。 [R7 生徒 94% 保護者 95%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒の問題行動およびいじめや体罰(その疑いを含む)の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数を95%以上にする。 [R7 97%]</p> <p>(4)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数を85%以上にする。 [R7 生徒 91% 保護者 87%]</p>	
<p>3 進路指導・キャリア教育の充実</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実</p> <p>ア HR、進路講話等を通じて、生徒の進路意識を向上させる。</p> <p>イ 進路決定・実現に向けた生徒の主体的な取組みを促進する。</p> <p>ウ 進路や高大連携に関する情報提供を適切かつ速やかに行い、生徒の進路選択を支援する。</p> <p>(2) 保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上</p> <p>ア 保護者への情報提供を適切に行い、家庭との連携を密にして生徒の進路実現を支援する。</p> <p>(3) 進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実</p> <p>ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、大学入試改革に的確に対応できるよう指導を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・各学年、年2回の進路講話および生徒の進路希望に応じたコース別説明会・学校別説明会を実施する。 ・本校独自の「進路の手引」を全校生徒に配付する。また、各学年に必要な進路情報を掲載した「進路ニュース」を年2回以上発行し、全校生徒に配付する。</p> <p>イ・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用し、キャリアパスポートを学期ごとに作成させる。</p> <p>ウ・学習支援クラウドサービスを活用し、国公立大学等に関する情報提供を随時教員向け、生徒向けに行うとともに、大阪公立大や関西大などの高大連携による様々なイベントの紹介を一層充実させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア・保護者対象の進路講演会を年2回以上、大学見学会を年1回実施する。また、保護者が相談しやすい環境をつくる。</p> <p>(3)</p> <p>ア・大学入試等に関する最新情報について、学習支援クラウドサービスを用いて全教職員に適宜配信するとともに、進路指導主事が学年会に出席して入試動向を伝達する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)において、「HRや進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数を80%以上にする。 [R7 生徒 84%]</p> <p>イウ・学校教育自己診断(生徒)において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を80%以上にする。 [R7 生徒 86%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(保護者)において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を75%以上にする。 [R7 保護者 77%]</p> <p>(3)</p> <p>アイ・学校教育自己診断(教職員)において、「進路についての適切な情報を知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を90%以上</p>	

	<p>イ 進学指導力向上に向け、模試分析会、志望校検討会を充実させる。</p> <p>(4) 生徒の希望する進路の実現 ア 生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行い、進路結果についての生徒の満足度を高める。</p> <p>(5) 令和6年度学校経営推進費事業「東創究学」(E-PLANET) 構想</p>	<p>イ・模試分析会、志望校検討会では、生徒一人ひとりの能力、適性を見極めるため、担任、関係教員の意見を全員で共有する。</p> <p>(4) ア・定期的に面談に必要な資料提供を行い、生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行う。また進路閲覧室の活用を促すとともに、進路に関してきめ細かいアドバイスを提供する。</p> <p>(5) ア・総合型選抜対策講座を開講し、さらに新図書館という学びの場を通じて、生徒の希望する進路の実現を支援する。 イ・図書館の改装に伴う書籍や棚の整理およびレイアウト変更と設備のリニューアルを行い、学びのハブとしての読書活動・探究活動を深め、さらに自習室機能を増強する。また、利活用時を促し、生徒の諸活動をサポートする。 ウ・学びのハブとしての書籍の配架に際して、生徒の興味を惹き、学びの質と生きる力の向上に寄与する書籍を選定する。</p>	<p>にする。 [R7 97%]</p> <p>(4) ア・令和8年度卒業生のうち、進路結果についての生徒の満足度を85%以上にする。 [R7 88%] ・令和8年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者を55名以上にする。 [R7 52名]</p> <p>(5) ア・国公立大学総合型選抜での合格率を25%以上にする。 [R7 0%]</p> <p>イウ・図書館を利用した授業を年間90回以上おこなう。(再掲) ・令和8年度学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を80%以上にする。(再掲) ・令和8年度において、生徒の図書館貸出冊数を2,000冊以上にする。(再掲) ・令和8年度において、学校教育自己診断(生徒)において、「普通科、英語科、理数科の3学科並置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を90%以上にする。(再掲)</p>	
<p>4 チーム東高校として課題解決にあたる教員集団の確立</p>	<p>(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり ア 学習支援クラウドサービスの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化を図る。 イ 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立するとともに、意見・提案しやすい環境づくりに努める。 ウ 有事において、教職員へ円滑な情報伝達を行うとともに、早期解決に向け、組織的に対応する。</p> <p>(2) 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく働き方改革の推進 ア 校務運営について業務の見直しやICTを用いた効率化を図る。 イ 部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定するとともに、適切な指導・運営体制を構築する。 ウ ゆとり週間等の取組みを通じて、休暇を取得しやすい環境を整備する。</p>	<p>(1) ア・日々の連絡から緊急連絡に至るまで、必要に応じて学習支援クラウドサービスを活用することで、業務の効率化を推進する。 イ・年度目標の達成に向けた校務分掌を組織するとともに、学校課題を解決するための教員チームを設置し、教職員の主体的な行動を促進する。 ウ・災害等が発生した場合、管理職から教職員への情報伝達および対策や指示が円滑に行われる組織体制を整える。</p> <p>(2) ア・ICTを活用した業務の効率化、行事や会議の精選、部活動も含めた業務分担の在り方等を総合的に検討し、学校運営の見直しを図る。 イ・部活動の年間・月間活動計画、実績報告をもとに適切な休養日確保を徹底し、方針に則った適切な活動とする。 ウ・ゆとり週間・月間の徹底に取り組み年休取得を促進する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数を80%以上にする。 [R7 90%] イ・学校教育自己診断(教職員)において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案しやすい環境である」の指数を80%以上にする。 [R7 85%] ウ・学校教育自己診断(教職員)において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数を90%以上にする。 [R7 92%]</p> <p>(2) ア・年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員をゼロにする。 [新規] イ・部活動が主たる要因で年間時間外在校等時間が360時間を超える人数を前年度よりも減少させる。 [新規] ウ・年次有給休暇の平均取得日数を10日以上にする。 [新規]</p>	

<p>5 令和10年度からの学科改編に向けた諸改革</p>	<p>(1) 学科改編に伴う学校運営体制の改革 ア 円滑に学科改編が進むよう、課題ごとに5つの学科改編PTを編成し検討を行う。 イ 「将来構想検討チーム」を公募により編成し、学科改編に伴う東高校の将来像についての検討を行う。</p> <p>(2) 広報活動の充実 ア 様々な手法で対外的に本校の魅力を発信する。 イ 学校見学会・説明会を充実させるとともに、外部の説明会等に積極的に参加する。</p>	<p>(1) ア・校務運営検討PT、教育課程検討PT、生徒指導等検討PT、進路指導検討PT、専門学科検討PT及び必要なPTを立ち上げ、諸課題の検討を進める。 イ・「将来構想検討チーム」と各種学科改編PTとが連携し、東高校の将来像についての検討を進める。</p> <p>ア・学科改編を見据え、ホームページ・インスタグラム・動画配信サービス等で本校の魅力を発信し志願者増につなげる。 イ・学校見学会・説明会を年間4回実施するとともに、外部の説明会等に10回以上参加し、学科改編に伴う本校の魅力を発信し志願者増につなげる。</p>	<p>(1) アイ・各種PT会議、将来構想検討チーム会議等を合計年間30回以上開催し、令和10年度からの新学科募集に向けた詳細を決定する。 [新規]</p> <p>アイ・令和9年度入学者選抜における志願倍率を前年度より増加させる。 [新規]</p>	
-----------------------------------	---	---	---	--